

事務事業及び予算の執行実績

令和5年度分 「一部、令和6年度分を含む」

静岡県立静岡視覚特別支援学校

〒422-8006 静岡市駿河区曲金五丁目3番30号

電話番号 054-283-7300

FAX番号 054-282-8919

目

次

事務事業の概要	(□□□□)
事務執行の根拠法令調	(□□□□)
学校施設の概要	(□□□□)
在籍生徒調	(□□□□)
入学志願者及び入学者数調	(□□□□)
卒業生の動向調（特別支援学校用）	(□□□□)
生徒の状況	(□□□□)
歳入予算執行状況調	(□□□□)
現金出納調	(□□□□)
預金調	(□□□□)
郵券等受払調	(□□□□)
歳入歳出外現金調	(□□□□)
歳出予算執行状況調	(□□□□)
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	(□□□□) (□□□□)
委託料に関する調	(□□□□)
負担金支出調	(□□□□)
公有財産調	(□□□□)
借地借家等調	(□□□□)
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	(□□□□)
行政財産貸付・使用許可調	(□□□□)
備品・図書調	(□□□□)
主要備品調	(□□□□)
公務中の事故等に関する調	(□□□□)
工事中の事故に関する調	(□□□□)
前回の監査結果等改善状況調	(□□□□)

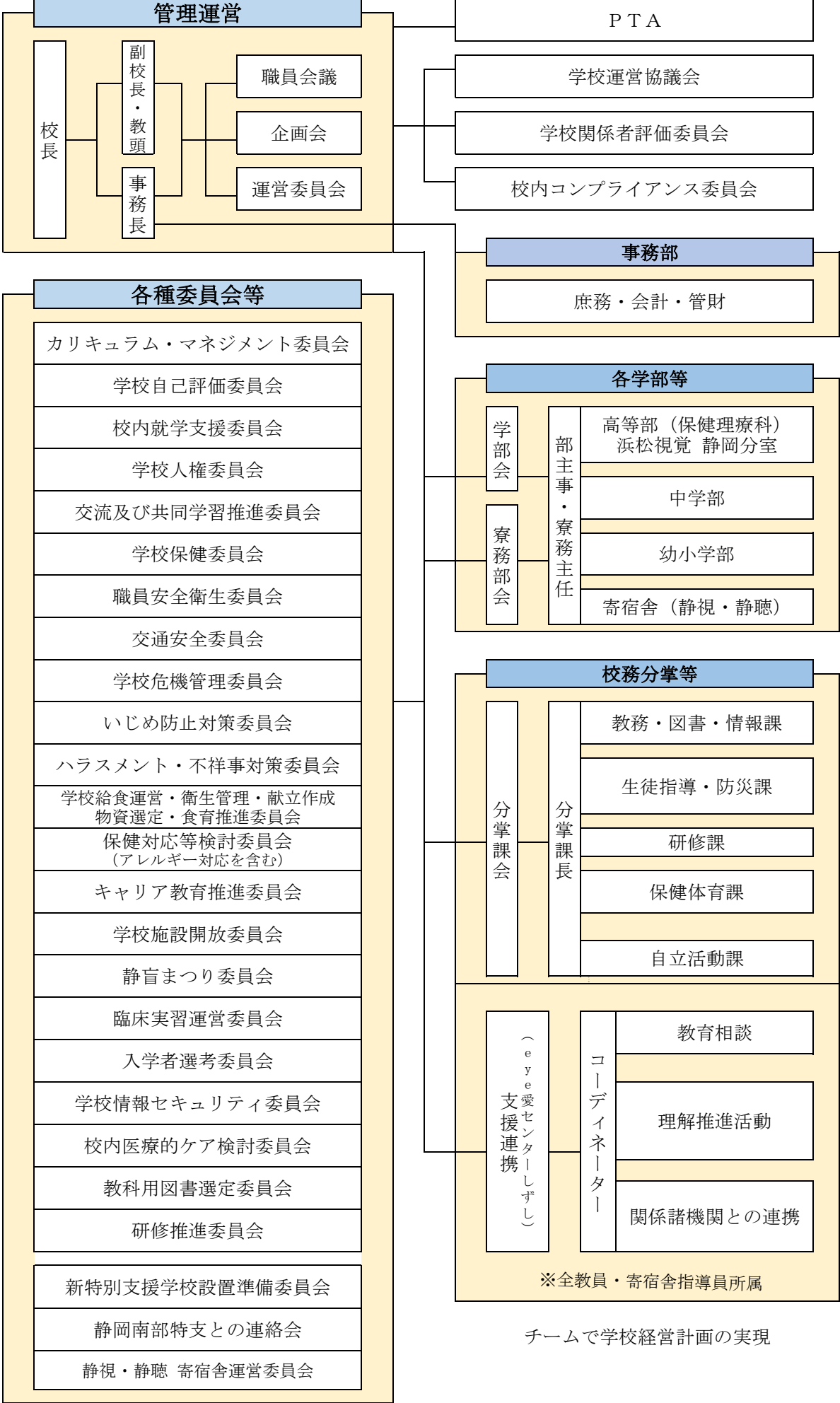
事務事業の概要

1 概況

(1) 学校の沿革

明治	30. 8. 1	東海訓盲院予備科開始
	31. 3. 2	東海訓盲院(現掛川市紺屋町)設立認可
大正	6. 1.15	静岡県安倍郡安東村(現静岡市)に移転
	6. 5.28	学則変更、私立静岡盲啞学校となる。
	7. 7.12	静岡市二番町に校舎新築、移転
	13. 4. 1	省令により私立静岡盲学校と、私立静岡聾啞学校に分離
昭和	15. 4. 1	静岡県立代用校に認可される。
	8. 4. 1	両校合併、静岡盲啞学校として経営を静岡県に移管される。
	9. 4. 1	盲啞分離、静岡県立静岡盲学校となる。
	12.10.19	静岡市曲金一丁目(現在地)に新築移転
	23. 4. 1	小学部、中学部、高等部設置
	27. 4. 1	高等部専攻科課程設置
	28. 3.31	あんま師、はり師、きゅう師、柔道整復師養成施設認可規則により、文部大臣より高等部理療科が認可される。
	37. 7. 2	体育館兼講堂新築完成
	48. 4. 1	高等部本科浜松盲学校に統合 幼稚部設置
	52. 3.19	寄宿舍新築完成
	52. 3.29	静岡県教育委員会規則第2号により、静岡県立盲学校学則の一部改正に伴い、高等部専攻科は廃止される。
	52. 4. 1	高等部別科は、浜松盲学校の分室となる。
	53. 2.28	校舎第1期工事(管理棟)完成
	53.11.30	校舎第2期工事(学習棟)完成
	55. 6.30	プール(15×10m)、プール管理棟完成
	55.12.15	歩行訓練施設完成
	58. 3.31	学習園完成
	62. 2. 3	屋外養護訓練設備完成
平成	2. 4. 1	静岡県教育委員会規則第12号により、静岡県立盲学校学則の一部改正に伴い、高等部保健理療科が設置される。
	5. 1.31	運動場改修工事完了
	9.10.31	校舎耐震補強工事(管理棟)完了
	10. 2.27	体育館新築完成
	10. 4. 1	盲学校超早期教育推進事業実施
	10. 9.22	校舎耐震補強工事(学習棟)完了
	14. 2.28	寄宿舍耐震補強工事完了、増築棟新築完成
	14. 4. 1	静岡県立静岡盲・聾学校寄宿舍合築、共生始まる。
	20. 4. 1	校名変更、静岡県立静岡視覚特別支援学校となる。
	26. 2. 6	災害用仮設トイレ設置工事完了
令和	27. 2. 6	蓄電池付太陽光発電設備工事完了
	31. 3.27	普通教室空調設備設置工事完了
	3. 1.22	特別教室空調設備設置工事完了
	5. 8.14	静岡地区新特別支援学校(仮称)設置に伴い、静岡南部特別支援学校及び隣接する旧一時保護所に仮移転

(2)組織図



2 目指す学校像 校訓「明るく強く」

(1) 教育目標 「自立と社会参加を目指し、可能性を広げる」

- 興味を持ち、夢や目標に向かって主体的に知識・技能及び習慣を身につける。(確かな学力)
- 自他を尊重し、コミュニケーションをとって行動できる態度を身につける。(豊かな心)
- 生活のリズムを身に付け、運動に親しみ、健康でたくましい体をつくる。(健やかな体)

(2) 具現化の柱

- 【育む】一人一人に応じた、基礎的・基本的な知識・技能及び習慣を育む。
- 【守る】安全安心で生き生きと生活できる豊かな学習環境を整える。
- 【つながる】視覚障害教育の情報発信の充実を図ると共に、校内外の連携・協働体制を整備する。

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和5年度の取組目標への評価及び成果と課題

評価の基準 A：十分良い B：概ね良い C：やや不十分 D：不十分

◎ワンチームによる継続的で持続可能な学校運営(しずしは つづくよ どこまでも)

本年度の取組(重点目標はゴシック体で記載)

ア 【育む】一人一人に応じた、生活につながる基礎的・基本的な知識・技能及び習慣を育む。

	取組目標	成果目標	達成 状況	評価	成果と課題
【育む】	○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の充実と改善を図る。	①チーム研修を中心に、幼児児童生徒のあらわれや事後研から授業改善につなげることができたと答える教職員(100%)	97%	A	「主体的・対話的な深い学び」につながる授業・生活づくりに向けた毎月のグループ研修や指導案の検討、SV研修などを計画的に実施できた。また、幼児児童生徒の学びの姿から様々な手立てを考えることができ、授業改善につなげることができた。
		②授業や活動を「わかった」「できた」「もっとやりたい」などと答える幼児児童生徒(100%)	100%	A	・分かりやすく授業を進めてもらうとともに安心した生活ができています。 ・自立活動の授業における白杖歩行などのことを覚え、安全に移動できるようになりたい。
		③ICT機器の充実と適切な活用のために充当した学校経営予算の割合(10%程度)＜事務＞	100%	A	仮移転後の施設設備の不具合対応が多く、機器の充実という点では疑問があるが、学校経営予算の充当割合は、達成できた。
		④授業や生活場面において集団構成を工夫して、子ども同士や多様な他者と学び合う場面を設定したと答える教職員(100%)	100%	A	・授業グループの構成やオンラインを活用した交流、共同しての校外学習など様々な工夫が見られ、意欲的に活動する児童生の姿が見られた。 ・寄宿舎では、普段の生活や多くのイベント等を通して、お互いの良さを認め合ったり、進んでコミュニケーションを取ったりするなど成長を感じる事ができた。

	取組目標	成果目標	達成 状況	評 価	成果と課題
	○将来の生活を豊かにするためのキャリア教育を推進する。	⑤全教職員が1人一授業公開を実施（100%）	96 %	A	計画的に1人一授業を実施できた。事後研修においては、各学部ごとのテーマに沿った話し合いができ、次の指導につなげることができた。他学部等の参観が難しかったので、この面の工夫を考えたい。
		⑥キャリア教育学習プログラムを活用し、学部内で年に2回以上検討する。	84 %	A	面談等で個々に進路に関する話をする事ができた。「キャリア教育プログラム」については、十分に活用できていない面があり、今後活用方法を検討していく。
		⑦学校からの情報を参考に、進路に関する考えが深まったと答える保護者（100%） ・進路学習会 施設見学会（8回） ・進路だよりの発行（3回）	100 %	A	施設見学会では、多くの施設を見学でき、子どもの進路の参考となった。保護者学習会では、他の保護者の皆さんからいろいろと話を聞くことができた。今後も学習会の機会を増やしてほしい。

イ 【 守 る 】 安全安心で生き生きと生活できる豊かな学習環境を整える。

	取組目標	成果目標	達成 状況	評 価	成果と課題
【 守 る 】	○幼児児童生徒が、互いを尊重して安全で安心して生き生きと学習できる環境を整備する。	①人権学習会やグループワーク等を学部ごと年3回実施する。	92 %	A	学部等で行った人権に関する話し合いは、教職員の主体性を引き出すことができ、意識の向上につながった。今後も幼児児童生徒や職員同士の言葉づかいについても、研修を進めていきたい。
		②来室した幼児児童生徒を尊重した対応をした職員（100%）＜事務＞	100 %	A	昨年度から継続して対応できた。人事異動で勤務する職員の入れ替わりが予想されるが、継続していきたい。
	○幼児児童生徒の健康管理の徹底と危機管理体制を整備する。	③医療的ケア、アレルギー対応を含む幼児児童生徒の怪我や、体調の変化による緊急時の対応を理解し、学部やグループ内で共有できた教職員（90%）	97 %	A	教員の日々の健康観察は、確実に出来るようになってきている。感染症等の対応についても連携を取りながらスムーズに行えた。怪我等の対応については、年度当初に行っているが、年度途中でも見直すなどの対応も必要である。

	取組目標	成果目標	達成 状況	評価	成果と課題
		④各学部、分掌と連携し、幼児児童生徒が安心して活動したり、移動したりするための学習環境整備を行った教職員。(100%)	100 %	A	移転後に教員がアイマスクをして校内を移動する体験を行ったことは、学習環境を考える上で、大変有意義であった。その後も幼児児童生徒の安全について、様子を見ながら環境を変えていくなどの工夫も見られた。
		⑤移転前後の学校において、動線上の障害や教室内の不具合を修繕等により解消又は軽減した件数(5件程度)	100 %	A	教職員の協力で、計画的に移転作業を行うことができた。幼児児童生徒が安全に移動できるように、シャッターを下げたり、マットを置くなど、話し合いの中で工夫や改善ができた。
		⑥発災時における時系列に沿った行動を理解し、訓練や研修等で共有できた教職員(90%以上)	100 %	A	静岡南部特支への仮移転後もマニュアルの改訂や合同の防犯・防災訓練など、発災時にどのような行動を取ることがいいのかを教職員全体で考えることができ、防災意識が高まった。

ウ 【つなぐ】専門性の維持・継承と授業力を向上させると共に、そのための職場環境を整える。

	取組目標	成果目標	達成 状況	評価	成果と課題
【つなぐ】	○教職員の専門性の維持・継承と授業力を向上させるとともに、そのための職場環境を整備する。	①新任研や自立活動学習会などで学んだことを活かし、専門性を向上した教職員。(90%以上)	94 %	A	新任者研修は、大変意義があり、その後の指導に役立っている。自立学習会においても事前の検討が学部等で行われ、理解がより深まった。歩行については、チェックリストを見直し、更なる指導の充実に努めたい。
		②自他を大切にし、お互いの人権を尊重した関わりができたと答える教職員(90%)	100 %	A	学部毎の研修や人権チェックシートの年2回の実施等で、教職員の人権意識は、高まってきている。児童が書いた廊下のポスターもとても良かった。全体計画や年間計画の作成を進めたい。
		③会議や業務が計画的かつ効率的に進められ、成績処理業務や新しい環境での授業準備に充てる時間がもてたと答える教員(80%以上)	100 %	A	会議は、効率的に運営され、成績処理の時間等も確保できた。移転後も落ち着いた学校運営ができている。来年度の年間授業時数については、今後検討していく。
		④業務を効率的に処理できるような手立てを検討又は実施した件数(10件程度) <事務>	100 %	A	仮移転後の業務軽減を目指したが、時間的余裕がなかったことから、検討にとどまったものや教職員全体に効果が表れるものではなかった。検討段階のものの実施への移行が課題になる。

エ 【つながる】 視覚障害教育の情報発信の充実を図ると共に、地域との連携・協働体制を整備する。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
【 つ な が る 】	○超早期から成人まで切れ目のない支援体制（地域支援体制の充実）	①眼科や保健師等と連携して 早期支援につなげた取り組み（10 件）	96 %	A	こども病院眼科医師、地域の保健師等と多くの情報交換ができた。校内への発信の充実にも努めた。
		②関係機関（医療や福祉等）に向けた視覚障害教育の理解推進活動（10 件）	96 %	A	園や学校への訪問により、担任だけでなく関わる教員や保護者等に見えにくさの理解と支援について考えることができた。
	○他者との交流を大切にし、幼児児童生徒の周囲への興味・関心を広げ、社会経験の拡大と社会性を育む。	③交流相手校と連携して計画し、幼児児童生徒が活動を楽しめた、充実した時間をもてたと答える教員（100%）	96 %	A	交流籍校や西豊田小学校、中部盲校などオンライン等を活用し、交流の数も増えた。児童生徒同士の交流の深まりが見られるなど、充実した交流ができた。
	○地域との連携・協働体制の整備を図る。	④幼児児童生徒の興味・関心を広げたり学びを深めたりするために、外部人材や校外学習等を活用できたと答える教職員（80%）	100 %	A	歩行指導や地域探検、フラワーアレンジメント教室など、外部人材を招き、学部や分掌で計画し、幼児児童生徒の学習の場を広めていくことができた。
		⑤協議会の意見を反映し、幼児児童生徒と地域が連携した取組ができる。（3 回以上）	94 %	A	協議会の内容を「地域との連携」としたことで、委員の皆様から多く意見をいただき、取り組めたことも多かった。全職員へ周知という面では課題がある。

(2) 令和6年度の取組目標

◎ワンチームによる継続的で持続可能な視覚障害教育（しずしは つづくよ どこまでも）

ア 【育む】一人一人に応じた、基礎的・基本的な知識・技能及び習慣を育む。

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
	○幼児児童生徒一人一人に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実。	○学習指導要領を踏まえた授業づくりと学習評価に努め「主体的、対話的で深い学び」の視点による授業改善と指導の充実。 ○多様な他者と学び合う集団づくりや交流及び共同学習を推進。 ○教材・教具やＩＣＴ機器等の活用。	○チーム研修を中心に、幼児児童生徒の日々のあらわれや事後研から授業や指導の改善につなげることができた。 ○学年学部を超えた活動や他校との交流、外部講師の活用を通して多様な他者と学び合う場面を設定することができた。 ○授業や日々の指導の中で個別のニーズに応じた情報機器の活用をすることができた。 ○点字図書、拡大図書、電子書籍、触る絵本など視覚専門の図書を、幼児児童生徒が親しむ場面を設定したり、指導に活用したりすることができた。	研修課 各学部 寄宿舍 教務図書 情報課 交流担当 自立活動課 事務部
	○教職員の専門性維持・継承。	○新任者研修や自立活動学習会等の校内の研修と校外研修の伝達等を通じた学び合いの実施。	○ニーズに応じた新任研修や学習会が企画・運営されることにより教職員の専門性が向上した。	自立活動課 研修課 各学部 寄宿舍
	○幼児児童生徒が自己の将来をデザインするキャリア教育推進。	○キャリア教育学習プログラムやキャリア・パスポートを活用し計画的にキャリア教育を実施。	○幼児児童生徒のキャリア形成を見据え、目標を立てたり振り返ったりすることができた。 ○面談の際にキャリア・パスポートを提示して検討することができた。	進路担当 各学部 寄宿舍
	○生涯にわたって健やかに生きるための健康づくりの推進。	○幼児児童生徒が運動や食、自分の体に関心を持ち自ら関わり、生活に定着する指導の実施。（食育、体力づくり、保健）	○日々の生活や学習の中で食の話題を取り上げたり、授業に関連させたりしながら幼児児童生徒の食への興味関心を広げることができた。	保健体育課 各学部 寄宿舍

イ 【守る】安全安心で生き生きと生活できる豊かな学習環境を整える。

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
【守る】	○幼児児童生徒の個性を尊重し、互いの良さを認め合うウェルビーイングの高い学校づくり。	○教職員が人権感覚を高め、幼児児童生徒の自己存在感、共感的な人間関係、自己決定の場、安全安心な風土を醸成。 ○教育活動全体を通じた幼児児童生徒の「自己指導能力」の獲得をめざした指導。	○人権研修会や人権感覚チェックを実施し、人権感覚の向上を意識することができた。 ○人権教育年間指導計画に基づき、教育活動全体を通じて人権教育を行うことができた。	生徒指導 防災課 各学部 寄宿舍
	○幼児児童生徒が安全で安心して生き生きと学習できる環境整備。	○感染症、アレルギー対応、緊急時対応等の対策の徹底と周知。 ○視覚障害に対応した学びを支える校内環境整備及びヒヤリハット事例の共有と対策の徹底。 ○発災時における時系列に沿った行動計画の見直しと共有。	○緊急時の対応を把握し、教職員間で連携して適切に対応することができている。 ○アイマスクや弱視レンズでのシミュレーションを通して校内環境について考え、整備や見直しをすることができた。 ○避難訓練や防災研修を通して、発災時における自身の役割を理解し、行動できた。	保健体育課 生徒指導 防災課 自立活動課 各学部 寄宿舍 事務部

ウ 【つながる】視覚障害教育の情報発信の充実を図ると共に、校内外の連携・協働体制を整備する。

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
【つながる】	○超早期から成人まで切れ目のない連携支援体制の充実。	○関係機関と連携した、早期教育、教育相談の充実。 ○地域に向けた理解推進活動の充実。 ○在籍幼児児童生徒の個別の教育支援計画を活用した連携体制の推進。	○関係機関と連携し相談者のニーズに応じた支援活動ができた。 ○視覚障害教育の理解推進に向けて関係機関への訪問や地域への情報発信ができた。 ○幼児児童生徒や保護者が支援に係る関係機関とその役割が分かり、適切につながっている。	地域支援 各学部 寄宿舍 特支コーディネーター
	○チームで業務に取り組む効果的で心理的安全性の高い環境の維持向上。	○自他の多様性を尊重し、風通しの良い環境づくり。 ○業務内容の精選や会議時間の効率化による指導準備や教材研究の時間確保。	○同僚や保護者、関係機関などの個性や立場の違いを認め合い、尊重したかわりができた。 ○会議や業務を計画的に進めたり、ノー会議デイを活用したりすることで、授業や指導に関わる業務の時間を確保することができた。	管理職 各学部 寄宿舍 教務図書 情報課 事務部
	○地域や家庭、関係機関との連携・協働体制による地域ぐるみの教育の推進。	○地域の施設や人材などを活用した学習活動や職員研修等を推進。	○地域資源を活用して幼児児童生徒の経験をひろげたり、学びを深めたりすることができた。 ○地域の人材を活用して研修し、教職員としての資質向上に繋げることができた。	各学部 寄宿舍 各分掌

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
		○幼児児童生徒、保護者に向けた、進路や関係機関の機能など将来を見据えた情報提供。	○幼児児童生徒や保護者のニーズを把握し、必要とする進路や支援の情報を提供することができた。	進路担当 各学部 寄宿舍 特支コーディネーター
		○学校運営協議会などを活用した、地域や静岡南部特別支援学校等との目標や課題の共有と連携した取組。	○よりよい教育の在り方や地域のニーズについて学校運営協議会委員や静岡南部特別支援学校と共有し実現に向けて協働することができた。	企画会 各学部 寄宿舍 学校運営協議会 静岡南部連絡会
	○新校開校を見据えた視覚障害教育の持続と包括的な共生を意識した学校づくり。	○専門教育を持続できる環境設定のための関係機関との協働。 ○様々な障害等の多様性を認め合い包括的に共生するための研修等の推進。	○新校のより良い学校環境づくりについて県教委や静岡北特別支援学校等と協働するとともに教職員が知的障害教育等について理解を深めることができた。	静岡地区 新特別支援学校設置検討委員会

4 監査対象期間における特色ある取組

年 度	取 組 概 要	成果及び課題
令和5年度	○各学部、分掌と連携し、幼児児童生徒が安心して活動したり、移動したりするための学習環境整備 ○発災時等における時系列に沿った行動を理解した訓練や研修などの危機管理体制の整備 ○他者との交流を大切にし、幼児児童生徒の周囲への興味・関心を広げ、社会経験の拡大と社会性を育む交流及び共同学習 ○地域との連携・協働体制の整備	○仮移転した校舎で教職員がアイマスクをして校内を移動するなどの研修を通して学習環境を考えた。幼児児童生徒が安全に活動できるよう、シャッターを下げたり、マットを置いたりするなどの工夫や改善をした。明るさの調整などの学習環境改善は引き続き必要。 ○仮移転後の環境に合わせたマニュアルの改訂や静岡南部特支との合同の防犯・防災訓練などで、教職員全体で考え、防災意識が高まった。 ○少人数のため、交流籍校や地域の園・学校、他県の盲学校などとオンラインも活用して、充実した交流を行った。 ○仮移転後の地域における地域資源の活用や地域との交流について学校運営協議会委員から多く意見をいただき、取り組めた。職員へ周知を充実したい。
令和6年度	○幼児児童生徒が自己の将来をデザインすることができるキャリア教育の推進 ・本校に即したキャリア教育の手引きやキャリアパスポートの作成と活用を図る。 ・キャリア形成を見据えた目標や振り返りを行う。 ○幼児児童生徒が安全で安心して生き生き学習できる環境整備 ・危機管理マニュアルの作成。 ・ヒヤリハット事例を教職員間で共有。教職員の意識を高める。	○キャリア教育の手引きやキャリアパスポートを作成し、教職員間で確認することができた。幼児児童生徒と共に目標や振り返りを行うことができたが、保護者にまで浸透するに至らなかった。今後は、保護者とも共有していきたい。 ○防災担当を中心とした、危機管理マニュアルを作成した。今後は危機管理マニュアルを活用した訓練を行っていく。職員会議でのヒヤリハット事例の報告を共有することで類似案件はなく、全員が気を付けることができた。今後は、月ごとのヒヤリハット事例などを検証していく。

	○超早期から成人まで切れ目のない連携支援体制の充実。 ・関係機関との連携。相談者のニーズに応じた支援活動。 ・視覚障害教育の理解推進に向けた関係機関への訪問や地域への情報発信。	○特別支援学校間での要請訪問や0歳から入学前の相談が増えている。理解推進が充実している。つながりを大切にした情報発信を今後もしていく。
--	--	--

5 教職員について

(1) 異動状況

令和7年4月1日現在

	本務職員														臨時・会計年度任用職員														合計
	教育職員								行政職員						本務職員計	臨時職員計													
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	栄養教諭	主任寄宿舎指導員	寄宿舎指導員	小計	事務長	主査	主任	主事	小計		教諭（臨時）	寄宿舎指導員（任期）	寄宿舎指導員（臨時）	実習助手（臨時）	非常勤講師	栄養士（臨時）	非常勤労務職員	非常勤嘱託員	乳幼児発達支援指導員	スクールカウンセラー				
転出者	1	1	0	6	0	0	0	0	8	0	0	1	0	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9			
退職者	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
転入者	0	0	0	4	0	1	0	0	5	0	0	1	0	1	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7			
新任者	1	1	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3			
再任用（退職）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
再任用（新任）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
差引増減	0	0	1	▲ ³	0	1	0	0	▲ ¹	0	0	0	0	0	▲ ¹	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			

(2) 現員数

	本務職員													臨時・会計年度任用職員													合計
	本務職員									行政職員				本務職員計	臨時職員計												
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	栄養教諭	主任寄宿舎指導員	寄宿舎指導員	小計	事務長	主査	主任	主事		小計	教諭（臨時）	寄宿舎指導員（任期）	寄宿舎指導員（臨時）	実習助手（臨時）	非常勤講師	栄養士（臨時）	非常勤労務職員	非常勤嘱託員	乳幼児発達支援指導員	スクールカウンセラー		
男	0	0	1	6	0	0	2	1	10	1	0	0	0	1	11	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	13	
女	1	1	0	13	1	1	0	2	19	0	2	1	0	3	22	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3	25	
計	1	1	1	19	1	1	2	3	29	1	2	1	0	4	33	2	0	0	1	0	2	0	0	0	5	38	

(3) 健康管理について
ア 令和5年度

目 的	内 容	成果及び課題
○全職員が心身ともに健康で、円滑に教育活動を推進するため、健康の保持増進に努める。(※継続)	○職員の健康診断を実施し、結果に基づき、事後措置及び健康管理医からの指導助言を受ける。	○職員の健康診断受診率は、100%であった。また、精密検査や再検査を受診できるよう、学部内で勤務を調整し、対象者全員が受診ができた。
	○企画会や職員安全衛生委員会を通して、教職員の心身の健康状態の把握に努め、働きやすい職場環境づくりを目指す。	○部主事や職員安全衛生委員を中心に、日頃の職員の様子を見て、気になるようなことがあれば、管理職に連絡するなど、学校全体で教職員の健康について考えることができた。
	○毎朝の健康観察等の新型コロナウイルス感染症対策を行い、職場の環境衛生面の改善や幼児児童生徒の健康づくりを目指す。	○新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下がるまでは、ガイドラインに従った衛生環境の整備ができた。その後も食事の体制は継続するなど感染状況等を見ながら、教職員で連携し、安全な環境づくりに努めることができた。

イ 令和6年度

目 的	内 容	成果及び課題
○全職員が心身ともに健康で、円滑に教育活動を推進するため、健康の保持増進に努める。	○職員の健康診断を実施し、結果に基づき、事後措置及び健康管理医からの指導助言を受けた。	○全職員が決められた健診を受けた。健診の結果、再検査等を必要とする職員は、その指示に従い、速やかに受けている。また、継続観察を要する全職員が定期的に受診している。
	○職員安全衛生委員会の年間計画を立案し、計画に基づき毎月開催した。内容を工夫し、職員の心身の健康状態の把握に努めた。	○職員が快適に過ごせる職場環境の工夫や、各委員が委員会の趣旨を理解した取り組みができ、学部職員の心身の健康にも意識を高く持つことができた。
	○児童等の朝の健康観察、継続観察を丁寧に行うことにより、体調管理、感染症に対する意識を高め、また、職場環境を整え、衛生面の改善点などを協議し、よりよい環境を目指した。	○児童等の健康観察、安全面での指導に対し視点をもって行うことで自身の健康に対する意識を高めることや環境衛生の整備に努めることができた。

(4) 教職員の研修について

ア 令和5年度

目 的	内 容	成果及び課題
○幼児児童生徒の授業づくりについて研修し、幼児児童生徒が主体的・対話的に学ぶことができる授業を目指す。	○「主体的・対話的で深い学び」の授業改善に向けた視点でのグループ研修を行い、どのような手立てが有効かを探る。また、一人一授業公開を行う中で、つながりのある研修をめざす。	○一人一授業では、「主体的・対話的で深い学び」につながる言葉かけや有効な補助具の活用等について、具体的に話し合いが行われた。深い学びにつながる幼児児童生徒の思考の変化にも気づき、より良い指導方法を探ることができた。
○視覚障害教育やその他の障害に対する指導に関する専門性、教科指導力の向上を目指す。	○OJTを推進し、教員一人一人の良さや教科指導力、生活指導力について意見を交わし、資質の向上を図る。	○教員同士で、幼児児童生徒の歩行の様子のビデオを見たり、実際にアイマスクをして移動したりする経験をした。全盲の児童の動きや心の面について詳しく知り、よりよい支援について一人一人が考え、意見を交わすことで、専門性が高まった。
○生活の中で自分の楽しさを見つけることをテーマに、様々な活動を経験し、社会性を育てることができる。(寄宿舎)	○舎生が様々な経験を重ねる中で、自分の好きな活動を見つけ、そのことをテーマに生活の幅を広げることを全指導員が意識し、継続的な支援を行う。	○舎生が自分なりに楽しいことを見つけ、そのことを大切にしたい生活づくりができてきた。また、着替えや食事、学習面の意欲にもつながり、生活の充実につながった。

イ 令和6年度

目 的	内 容	成果及び課題
○授業づくりや授業改善について研修し、幼児児童生徒が主体的・対話的で深い学びにつながる授業を目指す。	○各チームの研修テーマに係る教師の手立てや幼児児童生徒の学びの姿を中心に授業を振り返る。振り返りの中から改善策を考え、授業に活かすことにつながりのある授業づくりを行う。	○一人1授業の事後研では、各チームの研修テーマや目指す姿を手掛かりに教材教具の工夫や言葉かけや展開の工夫などの話し合いを行った。研修の進め方が定着し、多くの教員が見通しをもって話し合いに参加し、改善策について具体的な意見が多く出された。
○視覚障害教育やその他の障害に対する指導に関する専門性、教科指導力の向上を目指す。	○校内での自立活動学習会や他校での公開授業研究会についての出張報告などを通して、指導方法や相談支援について学び合い、資質の向上を目指す。	○自立活動学習会では、OJTや外部講師からの話を聞いて、点字や歩行、視覚補助具の活用について理解を深めた。また、他校の実践を参考に教師の手立てを見直し、専門性や指導力の向上を図ることができた。
○舎生の自立を目指し、社会性を育てることができる。(寄宿舎)	○全指導員で、本校ならではの生活力を育てるための実態把握の方法を考え、検討する研修を	○「生活指導基準表」を活用して、舎生の実態を把握するとともに支援に生かすことができ

	行う。学部とも連携する。	きた。今後もケース会議を定期的に行い、指導員全員が共通した支援ができるように努めたい。
--	--------------	---

6 防災対策について

(1) 目的

- ・ 校内防災意識の向上を図り、災害時の安全確保と、実動性がある防災組織を確立する。
- ・ 校内施設の安全点検を行い、安全な環境の保持に努める。

(2) 内容と成果及び課題

ア 令和5年度

	実施日	内 容	成果及び課題
学 校	4 月 14 日	避難経路確認	○仮移転に伴い、静岡南部特支の担当者と避難経路や非常時の連絡方法などを確認し、新しい防災計画書を作成した。避難訓練を行い、その後の課会や防災委員会で課題を確認し、マニュアルの修正・改善ができた。 ○発災時の本部運営や係の動きなど静岡南部特支と協働する部分の確認が必要であった。今後も合同の訓練を行うことで、改善点を共有していく。
	4 月 19 日	地震避難訓練	
	5 月 16 日	火災避難訓練 体験学習	
	8 月 7 日	防犯研修（南部合同）	
	8 月 31 日	防災研修	
	9 月 1 日	職員地震避難訓練（南部・センター合同）	
	9 月 12 日	地震避難訓練	
	10 月 27 日	地震防災訓練・引き渡し	
	11 月 30 日	火災避難訓練（南部合同）	
	1 月 31 日	火災避難訓練（南部合同）	
寄 宿 舎	4 月 3, 10 日	防災オリエンテーション	○訓練に参加した指導員からアンケートを取ったり、舎生からの疑問や不安を聞き取ったりすることで、問題点や改善点をまとめた。必要に応じて、個別に指導を行い、安全性を高めた。 ○校舎の仮移転があったが、舎生一人一人が、経路を確認し、安全な避難ができるようになった。
	4 月 25 日	地震避難訓練	
	6 月 27 日	火災避難訓練	
	7 月 12 日	防犯訓練	
	9 月 4 日	移転後の防災オリエンテーション	
	10 月 26 日	地震避難訓練	
	11 月 15 日	火災訓練	
	12 月 6 日	防犯訓練	
	1 月 31 日	防災学習会まとめ	
全 体	毎月 1 回	施設設備の保守管理	○校内の安全を守るために、点検、修繕を実施し、環境整備に努めた。

イ 令和6年度

	実施日	内 容	成果及び課題
学 校	4月15日	防災研修・図上訓練	○南部特支に移転して2年目になり、幼児児童生徒や職員の避難行動が定着してきた。学校危機管理マニュアルの見直しを行い、非常時における対応を分掌や学校防災委員会で検討を行った。次年度は学校危機管理マニュアルを活かして避難訓練や職員研修を行うようにし、臨機応変に対応できるようにしていきたい。
	4月18日	地震避難訓練	
	5月1日	地震避難訓練・引き渡し (南部合同)	
	7月24日	防災研修(非常食・防災グループワーク)	
	9月2日	地震火災避難訓練(南部・センター合同)	
	10月30日	地震・火災訓練 体験学習	
	11月5日	緊急地震速報対応訓練(南部合同)	
	12月16日	地震避難訓練(予告なし・南部合同)	
	1月28日	火災避難訓練(予告なし・南部合同)	
寄宿舎	4月5日	防災オリエンテーション(職員)	○危機管理マニュアルの見直しを行った。避難経路、避難方法について検討し、寄宿舎建物の耐震性能が1aであることから、地震の際の一次避難を建物内とし、火災等建物から避難する必要が無ければ、建物内での避難に変更した。また、夜間の火災等の避難行動でグラウンドに出た際に足元が暗かったため、ソーラー式センサーライトを(防犯対策を兼ね)取り付けた。
	4月8日	防災オリエンテーション(舎生)	
	5月14日	火災避難訓練	
	6月19日	地震避難訓練	
	9月25日	防犯訓練	
	8月26日	防災・防犯オリエンテーション(職員)	
	8月28日	防災・防犯オリエンテーション(舎生)	
	1月15日	地震避難訓練	
	1月31日	防災訓練のまとめ	
全 体	毎月1回	施設設備の保守管理	○校内の安全を守るために、点検、修繕を実施し、環境整備に努めた。

7 学校開放について

(1) 教育相談活動

ア 目的

- ・ 個人や関係機関等、相談者のニーズに応じた教育相談を行い、適切な支援に努める。
- ・ 行事・研修課の実施や積極的な情報発信を行い、視覚障害教育に対する理解を図る。

イ 教育相談実績と成果及び課題

(ア) 令和5年度

相談形態	対象と述べ回数等	成果及び課題
来校しての相談	就学前乳幼児 18人延べ 228回 小学生 21人延べ 113回 中高大学生 9人延べ 54回 成人 12人延べ 32回	○仮移転に伴い、来校しての相談を一時休止し電話やメールで対応した時期もあったため、件数が若干減った。 ○保護者のニーズに応え、園・学校への訪問相談を行ったことで、関係する複数の教員と支援を検討する機会を持っている。 ○校医の眼科での院内相談は、昨年より増えた。学校での教育相談に移行しているケースもある。
訪問しての相談	県立こども病院 10件 小学校・中学校 10件 幼稚園・保育園・施設 7件 特別支援学校 0件 羅眼科 5件	

(イ) 令和6年度

相談形態	対象と述べ回数等	成果及び課題
来校しての相談	就学前乳幼児 22人延べ 202回 小学生 22人延べ 163回 中高大学生 13人延べ 76回 成人 11人延べ 22回	○こども病院や校医の眼科での院内相談が増えた。来校しての教育相談や在籍校への訪問相談に移行しているケースもある。 ○特別支援学校から、見え方に応じた支援方法について知りたいと、訪問相談の依頼が増えた。
訪問しての相談	県立こども病院 15件 小学校・中学校 8件 幼稚園・保育園・施設 4件 特別支援学校 5件 羅眼科 7件	○低視力や左右の視力値に差がある児童生徒からの相談が多い。学校生活における安心感につながるため、算数、図工、家庭の用具等の扱い方を先取りして学習する相談が増えている。

ウ 相談関連行事実績と成果及び課題

(ア) 令和5年度

実施日	内容と参加人数	成果及び課題
6月20日	中学部説明会 0人	○乳幼児保護者学習会Ⅰは「片眼のお子さんへの支援」、Ⅱは「身体的ハンディも併せ持つお子さんへの支援」をテーマに実施した。 ○校舎仮移転のため、お楽しみ会は
6月21日	小学部説明会 1人	
6月23日	乳幼児保護者学習会Ⅰ 3人	
7月3日	乳幼児保護者学習会Ⅱ 3人	

9月13日	幼稚部説明会	2人	クリスマス会として1回実施した。 ○担当者研修会は、関係機関との連携づくりを目的に実施した。保健師、眼科医師・視能訓練士、福祉課やハローワークの担当者、教育委員会指導主事らが来校した。来校を機に、県立こども病院眼科とは個別のケースに関して対応を相談できている。
10月6日	保護者学習会	3人	
11月2日	担当者研修会	14人	
12月1日	お楽しみ会(クリスマス会)	9人	
2月1日	中学部体験入学	0人	
2月7日	小学部体験入学	0人	
2月14日	幼稚部体験入学	1人	

(イ) 令和6年度

実施日	内容と参加人数	成果及び課題
6月18日	中学部説明会 0人	○教育相談を利用する児童生徒とその保護者が集い、体験活動や情報交換を行うサマースクールを久しぶりに実施することができた。
6月19日	小学部説明会 3人	
6月29日	担当者研修会 10人	
8月2日	サマースクール 13人	○10月の保護者学習会は、静岡視覚特別支援学校の保護者と、教育相談を利用する保護者が参加し、弱視当事者の講演を聞いた。保護者にとっては、講師や他の保護者等と話ができる良い機会となった。
9月13日	幼稚部説明会 1人	
10月20日	保護者学習会 12人	○院内相談で出会い、教育相談を継続してきた幼児2名が、本校の幼稚部と小学部へ進む予定である。
11月1日	乳幼児保護者学習会 3人	
12月1日	お楽しみ会(クリスマス会) 8人	
2月5日	小学部体験入学 3人	
2月6日	中学部体験入学 0人	
2月21日	幼稚部入園説明会 1人	

(2) 理解啓発活動・ボランティア等の受入

ア 令和5年度

ボランティア等	人数(人)	内 容 等
静岡大学教職大学院	23	学校見学・体験
介護等体験	2	学校見学・体験
静岡大学2年生	24	学校見学・体験

※ 理解啓発活動で、市町の中部地区管内福祉課及び保健センター等を訪問 29ヶ所

※ 他機関への協力で、研修会講師として参加 6回

イ 令和6年度

ボランティア等	人数(人)	内 容 等
静岡大学2年生	19	学校見学・体験
介護等体験	4	学校見学・体験
焼津市主任児童委員	24	学校見学・体験
静岡大学4年生	1	教材教具作成補助 児童生徒支援補助

※ 理解啓発活動で、市町の中部地区管内福祉課及び保健センター等を訪問 37ヶ所

※ 他機関への協力で、研修会講師として参加 4回(小学校での福祉教育授業)

※ 高校生の探究活動への協力3回、6人

事務執行の根拠法令調

項 目	根拠法令
1 学校教育に関する こと	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、第76条、第77条、第78条、第79条、第82条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 学校給食法（第1条、第2条、第3条、第4条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第3条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学指導委員会規則 特別支援学校幼稚部教育要領 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領 教育職員の免許状に関する規則
2 学校管理・運営に 関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第23条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 静岡県手数料条例 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第1条、第2条、第3条、第4条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費補助金交付要綱 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱 いじめ防止対策推進法（第8条、第15条、第16条）

□□□□□

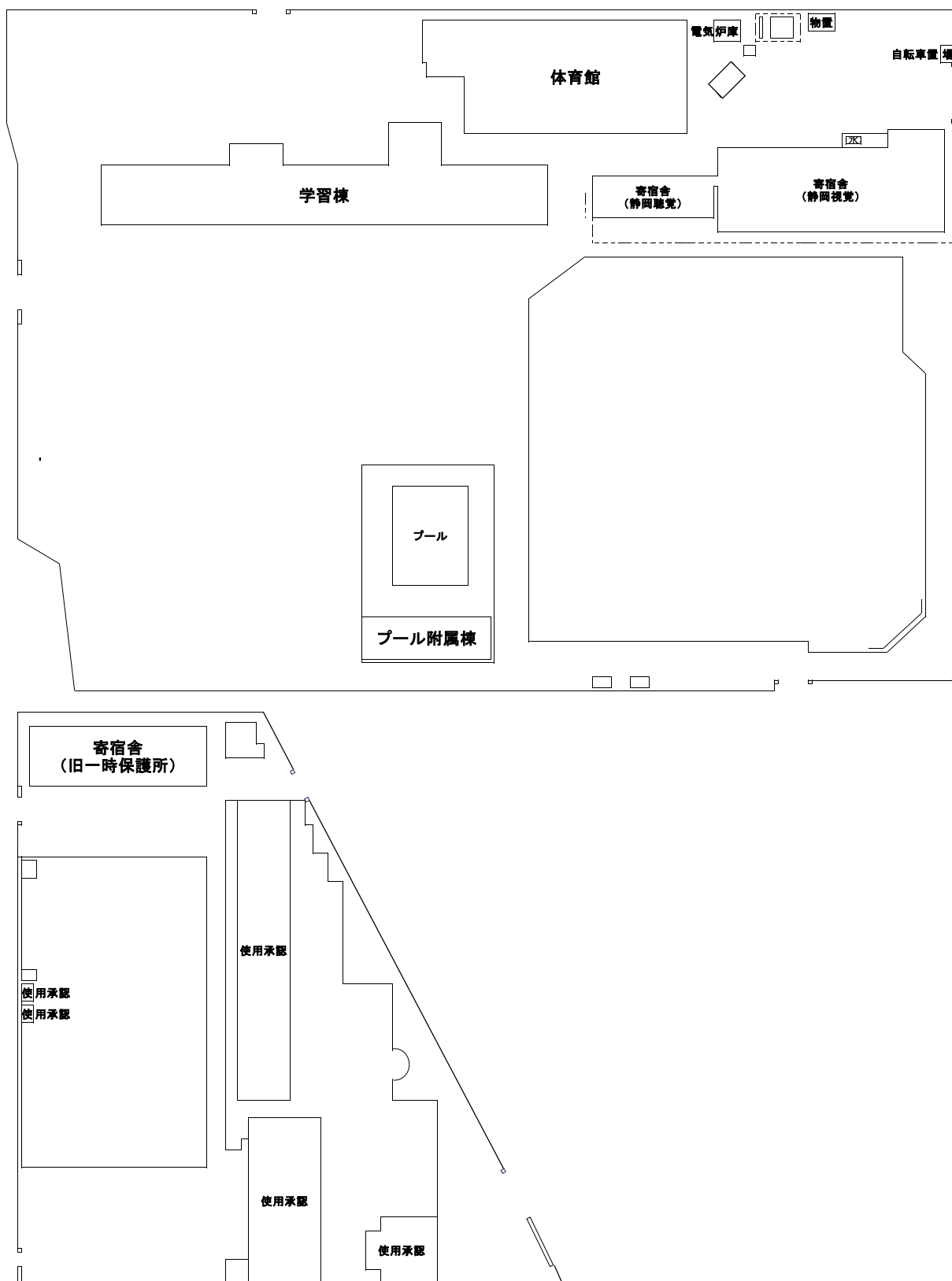
学 校 施 設 の 概 要

1 面積及び所有区分 (令和7年1月31日現在)

区 分		面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
			県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地		13,531.82	8,650.82	4,881.00				
内 訳	校 舎 敷 地	6,968.82	6,704.82	264.00				
	運動場敷地	6,563.00	1,946.00	4,617.00				
校 舎	建	662.59	662.59					
	延	1,689.62	1,689.62					
体 育 館	建	690.45	690.45					
	延	690.45	690.45					
その他の建物	建	135.70	135.70					
	延	135.70	135.70					
寄 宿 舎	建	667.64	667.64					
	延	1,145.03	1,145.03					
プ ー ル		150m ²	150m ²					4 コース 15m×10m

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等(法面・演習林等を除く)

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	13,531.82 m ²	1,689.62 m ²	6,563.00 m ²
県平均	18,814.78 m ²	6,361.36 m ²	5,244.39 m ²

在 籍 生 徒 調

(令和7年4月1日現在)

学年	課程 区分	幼稚園				小学部				中学部				高等部保健医療科				合計			
		定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	合計
1年 (3才)	入学者						2	1	3					8	1		1		3	1	4
	増加 減少		-----				-----				-----				-----				-----		
	現在						2	1	3						1		1		3	1	4
2年 (4才)	入学者			1	1									8						1	1
	増加 減少			1	1		-----				-----				-----				-----	1	1
	2年時当初			2	2															2	2
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	現在			2	2															2	2
3年 (5才)	入学者							2	2					8	1		1		1	2	3
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	2年時当初							2	2						1		1		1	2	3
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	3年時当初							2	2						1		1		1	2	3
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	現在							2	2						1		1		1	2	3
4年	入学者																				
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	2年時当初																				
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	3年時当初																				
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	4年時当初																				
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	現在																				
5年	入学者						2	1											2	1	3
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	2年時当初						2	1											2	1	3
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	3年時当初						2	1											2	1	3
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	4年時当初						2	1											2	1	3
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	5年時当初						1												1		1
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
6年	現在						1	1	2										1	1	2
	入学者																				
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	2年時当初																				
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	3年時当初																				
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	4年時当初																				
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	5年時当初																				
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	6年時当初																				
	増加 減少						-----				-----				-----				-----		
	現在																				
合計				2	2		3	4	7						2		2		5	6	11

ただし、高等部は浜松視覚特別支援学校の静岡分室

□□□□□

入学志願者及び入学者数調

区 分		令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度		
課 程 別		小 学 部	中 学 部	高 保 健 理 療 科	小 学 部	中 学 部	高 保 健 理 療 科	小 学 部	中 学 部	高 保 健 理 療 科	小 学 部	中 学 部	高 保 健 理 療 科	小 学 部	中 学 部	高 保 健 理 療 科
生 徒 定 員 (A)				8			8			8			8			8
募集者数(B)				8			8			8			8			8
志願者数	男						2			1						1
	女															
	計(C)						2			1						1
受検者数	男						2			1						1
	女															
	計(D)						2			1						1
合格者数	男						2			1						1
	女															
	計(E)						2			1						1
志願倍率(C)/(B)							0.25			0.13						0.13
受検倍率(D)/(B)							0.25			0.13						0.13
入学者数	男	2	1			3	2			1						1
	女	1						2								
	計(F)	3	1			3	2	2		1						1
充 足 率(F)/(A)							0.25			0.13						0.13

ただし、高等部は浜松視覚特別支援学校の静岡分室

□□□□□

卒業生の動向調

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部		1			1
その他高等学校等					
大学等	大学（学部）				
	短期大学(本科)				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校（専門課程）					
専修学校(一般課程)・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就 職					
上記以外※				2	2
不詳・死亡					
計（卒業者総数）		1	0	2	3

（再掲）「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					0
障害者支援施設					0
（うち就労系支援事業利用者）					0
医療機関					0
計		0	0	0	0

ただし、高等部は浜松視覚特別支援学校の静岡分室

□□□□□

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和7年1月31日現在) (単位：人)

市町名	静岡市	焼津市	藤枝市	御前崎市	合 計
生徒数	5	4	2	1	12
構成比%	42%	33%	17%	8%	100%

(2) 通学方法 (令和7年1月31日現在) (単位：人)

区分	徒歩	自家用車	自家用車バス	バス	電車	電車・バス	合 計
生徒数	1	9	0	0	0	2	12
構成比%	8%	75%	0%	0%	0%	17%	100%

2 部（クラブ）の加入状況

高等部 (令和7年1月31日現在) (単位：人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数			1		1
男子	1 年				
	2 年		1		1
	3 年		2		2
	計 (A)		3		3
	構成比				
女子	1 年				
	2 年				
	3 年				
	計 (B)				
	構成比				
合計	(A + B)		3		3
	構成比				

3 障害別児童生徒数

(令和7年1月31日現在) (単位:人)

区 分		1年 (2歳)	2年 (3歳)	3年 (4歳)	4年 (5歳)	5年	6年	合 計	学級数
幼稚園部	単一障害		1		2			3	2
	-								
	-								
	合 計		1		2			3	2
小学部	単一障害		1		3			4	2
	重複障害		1					1	1
	肢体重複								
	合 計		2		3			5	3
中学部	単一障害								
	重複障害			1				1	1
	肢体重複								
	合 計			1				1	1
高等部	単一障害		1	2				3	2
	重複障害								
	肢体重複								
	合 計		1	2				3	2

4 起因疾患別児童生徒数

(令和7年1月31日現在) (単位:人)

区 分	網膜色素 変性症	緑内障	未熟児 網膜症	無虹彩症	小眼球	その他	計
幼稚園部			1		2		3
小学部					1	4	5
中学部			1				1
高等部	2	1					3
計	2	1	2		3	4	12

□□□□□

預 金 調

(令和7年1月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 (円)	摘 要
清水銀行 東静岡支店	普通預金	3001280	静岡県立静岡視覚特別支援学校 資金前渡者 佐々木 雅則	0	給与
静岡銀行 池田支店	無利息型 普通預金	0197404	(自振口) 静岡県立静岡視覚特別支援学校 資金前渡者 佐々木 雅則	0	公共料金等 口座振替
静岡銀行 池田支店	普通	0195997	静岡視覚特別支援学校奨励費 代理受領者 佐々木 雅則	0	就学奨励費 受領
残高合計				0	

□□□□□

郵 券 等 受 払 調

(令和7年1月31日現在)
(単位：枚、円)

区 分	種 類	令和5年度						令和6年度								摘要
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵券	1 円券															文書 發送用
"	10 円券															"
"	63 円券															"
"	84 円券			11	924	11	924									"
"	110 円券									20	2,200	20	2,200			"
計					924		924				2,200		2,200		0	
タクシー チケット	静岡市タクシー 事業協同組合	31						31						31		市内 連絡用
計		31						31						31		
iTunes Card	1,500 円分		1,490						1,490						1,490	アプリ ダウン ロード
	5,000 円分		4,330						4,330						4,330	
	10,000 円分			2	20,000	2	20,000									
計			5,820		20,000		20,000		5,820						5,820	

□□□□□

委 託 料 等 歳 出 予 算 執 行 状 況 節 別 集 計 表

節 名	会計	款	項	目	執 行 済 額 (円)		
					令和4年度	令和5年度	左のうち3年度からの繰越額分
(12) 委 託 料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		6,918,560	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		264,000	
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費		12,878,800	
計					14,411,100	20,061,360	0
(14) 工 事 請 負 費							
計					0	0	0
(16) 公有財産 購 入 費							
計					0	0	0
(17) 備 品 購 入 費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		0	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		1,739,280	
計					965,900	1,739,280	0
(18) 負担金、 補助及 び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		54,500	
計					60,500	54,500	0
(21) 補償、補填 及び賠償 金							
計					0	0	0

□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年1月31日現在)

節 名	会計	款	項	目	執 行 済 額 (円)	
					うち、4年度からの繰越額分	
(12) 委 託 料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	0	
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	9,493,000	
計					9,493,000	0
(14) 工 事 請 負 費					0	
					0	
					0	
					0	
計					0	0
(16) 公有財産 購 入 費					0	
					0	
					0	
					0	
計					0	0
(17) 備 品 購 入 費	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	136,400	
	一般会計	教育費	教育委員会費	教育総務費	3,150,000	
計					3,286,400	0
(18) 負担金、 補助及 び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	67,700	
計					67,700	0
(21) 補償、補填 及び賠償 金					0	
					0	
					0	
					0	
計					0	0

□□□□□

委 託 料 に 関 す る 調

(令和5年度)

整理 番号	委託 業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契約 期間	支出 年月日	金額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変更 増減額	計						
1	(事務関係) 給食調理業務委託	㈱シーアンドシー	円 40,485,500	円 39,600,000	0	円 39,600,000	一般	2.8.31 ～ 5.7.31	5.5.31 5.6.30 5.7.31 5.8.31	円 1,100,000 1,100,000 1,100,000 1,100,000	給食及び舎食の調理・配膳	2長期
	小計		40,485,500	39,600,000	0	39,600,000				4,400,000		
2	産業廃棄物収集運搬処分業務	㈱総合美装ワタナベ	66,000	66,000	0	66,000	随契	5.4.7 ～ 5.5.31	5.5.12	66,000	混合廃棄物の収集・運搬・処分	随契1号(少額)
3	産業廃棄物収集運搬処分業務	㈱総合美装ワタナベ	66,000	66,000	0	66,000	随契	5.4.25 ～ 5.6.30	5.6.28	66,000	混合廃棄物の収集・運搬・処分	随契1号(少額)
4	産業廃棄物収集運搬処分業務	㈱総合美装ワタナベ	66,000	66,000	0	66,000	随契	5.6.7 ～ 5.7.31	5.8.10	66,000	混合廃棄物の収集・運搬・処分	随契1号(少額)
5	産業廃棄物収集運搬処分業務	㈱総合美装ワタナベ	66,000	66,000	0	66,000	随契	5.7.24 ～ 5.9.29	5.9.20	66,000	混合廃棄物の収集・運搬・処分	随契1号(少額)
6	物品移設業務	アーク引越センター㈱東京法人第二営業部	7,352,400	6,160,000	0	6,160,000	一般	5.6.19 ～ 5.9.29	5.10.31	6,160,000	物品等の移設	
7	グリストラップ汚泥収集・運搬業務	グリーン・シャワー㈱	18,700	18,700	0	18,700	随契	5.7.27 ～ 5.9.29	5.8.30	18,700	グリストラップの汚泥の収集・運搬	随契1号(少額)
8	グリストラップ汚泥収集・運搬業務	グリーン・シャワー㈱	18,700	18,700	0	18,700	随契	6.3.15 ～ 6.3.29	6.4.12	18,700	グリストラップの汚泥の収集・運搬	随契1号(少額)
9	グリストラップ汚泥処分業務	静和エンバイロメント㈱	18,700	18,700	0	18,700	随契	5.7.27 ～ 5.9.29	5.9.14	18,700	グリストラップの汚泥の処分	随契1号(少額)
10	グリストラップ汚泥処分業務	静和エンバイロメント㈱	18,700	18,700	0	18,700	随契	6.3.15 ～ 6.3.29	6.4.12	18,700	グリストラップの汚泥の処分	随契1号(少額)
11	給食業務委託	㈱ユアーズ静岡	43,585,300	37,818,000	0	37,818,000	一般	5.8.1 ～ 8.7.31	5.9.29 5.10.31 5.11.30 5.12.27 6.1.31 6.2.29 6.3.29 6.4.26	1,050,500 1,050,500 1,050,500 1,050,500 1,050,500 1,050,500 1,050,500 1,050,500	給食及び舎食の調理・配膳	5長期
	小計		43,585,300	37,818,000	0	37,818,000				8,404,000		
12	産業廃棄物(木の部屋)収集運搬処分業務	㈱新井産業	713,900	409,200	0	409,200	随契	5.12.25 ～ 6.2.29	6.2.19	409,200	廃酸、ホルマリン漬け標本の収集・運搬・処分	随契1号(少額)
13	産業廃棄物(蛍光管・乾電池)収集運搬処分業務	㈱静岡資源	87,120	87,120	0	87,120	随契	5.12.25 ～ 6.2.29	6.2.5	87,120	使用済み蛍光管・乾電池の収集・運搬・処分	随契1号(少額)
14	産業廃棄物(廃薬品類)収集運搬処分業務	㈱大洋サービス	172,810	172,810	0	172,810	随契	6.1.17 ～ 6.3.22	6.3.18	172,810	廃薬品類の収集・運搬・処分	随契1号(少額)
15	産業廃棄物(廃薬品類)収集運搬処分業務	㈱大洋サービス	89,430	89,430	0	89,430	随契	6.2.27 ～ 6.3.29	6.3.25	89,430	廃薬品類の収集・運搬・処分	随契1号(少額)
	事務関係計	15件	92,825,260	84,675,360	0	84,675,360				20,061,360		
	合計	15件	92,825,260	84,675,360	0	84,675,360				20,061,360		

委 託 料 に 関 す る 調

[illegible]

委 託 料 に 関 す る 調

(令和6年度)
(令和7年1月31日現在)

[illegible]

□□□□□

負担金支出調

(令和5年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	中部地区盲学校 長会会費	中部地区盲学校 長会	中部地区盲学校 長会会則	盲教育及び振興	円 3,000	5. 5. 29
2	全国盲学校副校 長・教頭会総会 並びに研究協議 会参加費	全国盲学校副校 長・教頭会	開催要項	盲教育及び振興	2,000	5. 7. 14
3	中部地区盲学校 副校長・教頭会 会費	中部地区盲学校 副校長・教頭会	中部地区盲学校 副校長・教頭会 会則	盲教育及び振興	1,000	5. 7. 28
4	日本弱視教育研 究会年会費	日本弱視教育研 究会	日本弱視教育研 究会会則	盲教育及び振興	6,000	5. 7. 24
5	全国盲学校長会 会費	全国盲学校長会	全国盲学校長会 会則	盲教育及び振興	20,000	5. 7. 28
6	全日本盲学校教 育研究大会・北 海道大会参加費	全日本盲学校教 育研究大会運営 委員会	開催通知	盲教育及び振興	3,500	5. 7. 31
7	全国盲学校副校 長・教頭会年会 費	全国盲学校副校 長・教頭会	全国盲学校副校 長・教頭会会則	盲教育及び振興	4,000	5. 9. 15
8	日本弱視教育研 究会全国大会広 島大会参加費	日本弱視教育研 究会	開催通知	盲教育及び振興	5,000	5. 12. 22
9	子どもの体験型 防犯講座「あぶ トレ」負担金	静岡県くらし・ 環境部くらし交 通安全課	開催要項	犯罪の予防と防犯 意識の高揚	10,000	6. 2. 29
	計	9 件			54,500	

□□□□□

負担金支出調

(令和6年度)
(令和7年1月31日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	中部地区盲学校 長会会費	中部地区盲学校 長会	中部地区盲学校 長会会則	盲教育及び振興	円 3,000	6. 5. 28
2	特別管理産業廃 棄物管理責任者 講習会受講料	公益財団法人日 本産業廃棄物処 理振興センター	開催要項	産業廃棄物管理責 任者講習	13,200	6. 6. 6
3	全日本盲学校教 育研究会・熊本 大会参加費	全日本盲学校教 育研究会運営委 員会	開催通知	盲教育及び振興	3,500	6. 6. 21
4	中部地区盲学校 副校長・教頭会 会費	中部地区盲学校 副校長・教頭会	中部地区盲学校 副校長・教頭会 会則	盲教育及び振興	1,000	6. 7. 2
5	全国盲学校長会 会費	全国盲学校長会	全国盲学校長会 会則	盲教育及び振興	20,000	6. 7. 17
6	全国盲学校副校 長・教頭会総会 並びに研究協議 会参加費	全国盲学校副校 長・教頭会	開催要項	盲教育及び振興	2,000	6. 7. 12
7	全日本盲学校教 育研究会・熊本 大会参加費	全日本盲学校教 育研究会運営委 員会	開催通知	盲教育及び振興	7,000	6. 7. 19
8	日本弱視教育研 究会年会費	日本弱視教育研 究会	日本弱視教育研 究会会則	盲教育及び振興	6,000	6. 7. 26
9	全国盲学校副校 長・教頭会年会 費	全国盲学校副校 長・教頭会	全国盲学校副校 長・教頭会会則	盲教育及び振興	3,000	6. 8. 22
10	全国盲学校長会 秋季研究協議会 香川大会参加費	全国盲学校長会 秋季研究協議会 香川大会主管	開催要項	盲教育及び振興	4,000	6. 9. 13
11	日本弱視教育研 究会全国大会名 古屋大会参加費	日本弱視教育研 究会	開催通知	盲教育及び振興	5,000	6. 11. 22
	計	11件			67,700	

□□□□□

公 有 財 産 調

(令和 5 年度)

(令和 6 年 2 月 29 日現在)

区分	令和 5 年 3 月 31 日現在		増		減		令和 6 年 2 月 29 日現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産		千円 1,755,429		千円 178		千円 10,771		千円 1,744,836	
土 地	m ² 8,650.82	1,554,950	m ²		m ²		m ² 8,650.82	1,554,950	
立木竹	本 116	2,419	本		本		本 116	2,419	
建 物	m ² 建 2,784.43 延 5,233.13	113,930	m ²		m ² 628.05 1,572.33	8,693	m ² 建 2,156.38 延 3,660.80	105,237	用途廃止による減
工作物	個 108	84,130	個 5	178	個 45	2,078	個 68	82,230	分割による増 用途廃止による減
普通財産		千円 240		千円 10,771		千円 0		千円 11,011	
土 地	m ² 0.00	0	m ²		m ²		m ² 0.00	0	
立木竹	本 0	0	本 0	0	本		本 0	0	
建 物	m ² 建 0.00 延 0.00	0	m ² 628.05 1,572.33	8,693	m ²		m ² 建 628.05 延 1,572.33	8,693	行政財産からの組替による増
工作物	個 0	0	個 45	2,078	個		個 45	2,078	行政財産からの組替による増
公有財産に準ずるもの		240		0		0		240	
電 話 加入権	件 7	240	件		件		件 7	240	

□□□□□

公 有 財 産 調

(令和 6 年度)

(令和 7 年 1 月 31 日現在)

区分	令和 6 年 2 月 29 日現在		増		減		令和 7 年 1 月 31 日現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産		千円 1,744,836		千円 0		千円 35,680		千円 1,709,156	
土 地	m ² 8,650.82	1,554,950	m ²		m ²		m ² 8,650.82	1,554,950	
立木竹	本 116	2,419	本		本 87	1,829	本 29	590	処分による減
建 物	m ² 建 2,156.38 延 3,660.80	105,237	m ²		m ²	16,556	m ² 建 2,156.38 延 3,660.80	88,681	価格改定による減
工作物	個 68	82,230	個		個	17,295	個 68	64,935	用途廃止による減 価格改定による減
普通財産		千円 240		千円 0		千円 10,224		千円 -9,984	
土 地	m ² 0.00	0	m ²		m ²		m ² 0.00	0	
立木竹	本 0	0	本		本		本 0	0	
建 物	m ² 建 628.05 延 1,572.33	8,693	m ²		m ² 628.05 1,572.33	8,693	m ² 建 0.00 延 0.00	0	処分による減
工作物	個 45	2,078	個		個 42	1,531	個 3	547	処分による減
公有財産に準ずるもの		240		0		0		240	
電 話 加入権	件 7	240	件		件		件 7	240	

□□□□□

借地借家等調

(令和 7 年 1 月 31 日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地目		数量又 は面積	借料		契約 期間	所有者又 は契約者 氏 名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	敷地	静岡市駿河区曲 金六丁目 1－5	田	学校 敷地	m ² 4,881	円	円 3,165,661	6. 4. 1 ～ 7. 3. 31	農林水産省	校舎、運 動場用地 (本庁契 約 7 筆 分)
2	土地	敷地	静岡市駿河区曲 金 5 丁目 3－30	宅地	学校 敷地	m ² 733	円	免除	5. 7. 24 ～ 8. 3. 31	静岡南部特 別支援学校	校舎、運 動場用地
3	建物	建物	静岡市駿河区曲 金 5 丁目 3－30	事務 所建	校舎	m ² 724	円	免除	5. 7. 12 ～ 8. 3. 31	静岡南部特 別支援学校	校舎
	計					6,338		3,165,661			

□□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和 6 年度)

(令和 7 年 1 月 31 日現在)

区分	事業名又は契約名	内容	契約額	(契約額の年度別内訳)				
				令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	年度
長期継続契約	給食業務	学校給食、寄宿舎食の調理・配膳 (契約日) 令和 5 年 7 月 28 日	円		円	円	円	円
			37,818,000	8,404,000	12,606,000	12,606,000	4,202,000	

□□□□□

行政財産貸付・使用許可調

(令和 7 年 1 月 31 日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地目		数量又 は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者 の 氏 名	貸付・ 使用許 可目的
				台帳	現況		単価	年 額			
1	土地	学校敷地	静岡市駿河区曲金六丁目1－5	田	学校敷地	本 5	円 1,500	円 7,500	2.4.1 ～ 7.3.31	東京電力パワーグリッド(株)静岡支社 静岡営業所長	電柱 2 本 支線 2 条 支線柱 1 本
2	土地	学校敷地	静岡市駿河区曲金六丁目1－5	田	学校敷地	m ² 0.60		免除	2.4.1 ～ 7.3.31	静岡市長	避難地 標識板
3	土地	学校敷地	静岡市駿河区曲金六丁目1－5	田	学校敷地	m ² 10.06		免除	2.4.1 ～ 7.3.31	静岡市長	防災倉庫
4	土地	学校敷地	静岡市駿河区曲金六丁目1－5	田	学校敷地	m ² 107.63		免除	4.4.1 ～ 7.3.31	静岡聴覚特別 支援学校長	寄宿舍 (静岡県財産 規則第37条 による使用 承認)
5	土地	学校敷地	静岡市駿河区曲金六丁目1－5	田	学校敷地	m ² 0.36		免除	4.4.1 ～ 7.3.31	静岡南警察署長	交通信号柱 (静岡県財産 規則第37条 による使用 承認)
6	土地	学校敷地	静岡市駿河区曲金六丁目1－5	田	学校敷地	本 1	円 1,500	円 1,500	4.4.1 ～ 9.3.31	西日本電信電話 (株)静岡支店長	電柱 1 本
7	土地	学校敷地	静岡市駿河区曲金六丁目1－5	田	学校敷地	m ² 12.04		免除	2.4.1 ～ 7.3.31	静岡市長	公衆用 市道路
合 計								円 9,000			

主 要 備 品 調

1 / 2 頁

令和7年 1月31日 現在

所属 0000230124 県立特別支援学校 静岡視覚特別支援学校

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額 (円)	摘 要
	大・中	小					
	10-99	その他の教育用器具	その他の教育用器具 オプタコン一式		61.11	5,750,000	86-016338
	01-13	その他の厨房器具	真空冷却機		25. 3	3,339,000	12-004960
	02-01	パーソナルコンピュータ (一式)	県立学校 I C T 環境整備機器一式		2. 1	3,320,339	19-003876
	02-01	その他の情報処理機器	校内 L A N サーバー一式 ネットワークサーバー		13. 3	2,211,300	00-009679
	01-13	加熱器具	加熱器具 900×795×1,195		23. 2	1,575,000	10-005069
	01-04	その他の収納保管庫	防災倉庫 アルストッカー S A ー		9. 3	1,290,590	96-020580
	02-01	ワードプロセッサ (一式)	ワードプロセッサ (一式) バーサブレイル 2		4. 3	1,290,000	91-026292
	10-99	その他の教育用器具	点字プリンター 日本点字サイズ点字両		23.10	1,239,000	11-011645
	02-01	パーソナルコンピュータ周辺機器	点字ディスプレイ Do t PAD DPA320A Dot Modeul		7. 1	1,210,000	24-002170
	02-01	パーソナルコンピュータ周辺機器	点字ディスプレイ Do t PAD DPA320A Dot Modeul		7. 1	1,210,000	24-002171
	02-01	その他の情報処理機器	点字プリンター		2.11	1,036,200	20-002800
	10-99	その他の教育用器具	点字プリンター ESA721 Ver'95		26. 3	1,018,500	13-006067
	02-01	レーザープリンター・スキャナ	点字プリンター J T R E S A 7 2 1		15. 3	1,006,950	02-010558
	02-01	その他の情報処理機器	点字プリンタ D O G - B a s i c 3		16.11	1,003,800	04-012415
	01-13	その他の厨房器具	食器消毒保管機		26. 3	980,700	13-006555
	10-99	その他の教育用器具	低周波治療器		23.11	861,000	11-016236
	02-01	その他の情報処理機器	校内 L A N サーバー一式		21. 7	793,800	09-001479
	10-99	その他の教育用器具	自動間欠牽引装置 Aタイプ (2人用)		23.11	735,000	11-016237
	01-04	移動書庫	移動書庫 移動書架 後列6連固		5.11	721,000	93-004818
	01-04	移動書庫	移動書庫 移動書架 後列6連固		5.11	721,000	93-004819
	10-99	その他の教育用器具	真空成型機 Vacuum Former 1210		26. 3	704,445	13-006068

主 要 備 品 調

2 / 2 頁

令和7年 1月31日 現在

所属 0000230124 県立特別支援学校 静岡視覚特別支援学校

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額 (円)	摘 要
	大・中	小					
	01-07	製本機	点字製本機		15.12	693,000	03-005460
	09-01	模型	模型 筋模型 27分解		2. 8	692,160	90-026954
	01-13	食品食器洗浄機	食品食器洗浄器 SD113GSAH		20. 8	682,500	08-002203
	10-07	鍵盤楽器	鍵盤楽器 電子ピアノ グラビノ		4. 3	670,000	91-020123
	02-01	その他の情報処理機器	点図ディスプレイ Dot View D		15.12	617,400	03-005689
	10-99	その他の教育用器具	点字パソコン		23.10	610,000	11-011642
	10-08	その他の芸術用器具	その他の芸術用器具 電気窯 デジタル自動 可搬式放送機器		3. 3	605,000	90-026965
	02-02	放送装置			26. 2	588,000	13-005018
	01-02	台	電動上下昇降講演台 プラス MW-120		10. 3	567,000	97-022431
	02-01	パーソナルコンピュータ周辺機器	両面点字プリンタ BRAILEVERE		8. 3	553,419	95-050093
	02-01	その他の情報処理機器	校内LANサーバ等一式（静岡視		29. 3	529,308	16-005686
	01-04	移動書庫	移動書庫 後列3台前列2台耐火		6. 7	520,000	94-003091
	01-07	その他の書類整理機器	丁合機 デュプロ DFC-1		15. 1	493,500	02-005967
	10-08	その他の芸術用器具	電気陶芸窯 AC・J-5		21. 3	480,000	08-009690
	01-13	その他の厨房器具	食器消毒保管庫 電気式 タニコーH2		6. 7	478,950	94-003028
	01-13	食品保存庫	食品保存庫		2.12	467,500	20-003681
	01-13	食品食器洗浄機	食器消毒保管庫 食器消毒保管庫 片面		1. 8	448,050	89-022628
	10-99	その他の教育用器具	人体筋肉模型女子 11010-000		26. 3	446,250	13-006557
	10-99	その他の教育用器具	拡大読書器 カラー拡大読書器		6.12	445,500	94-013319
	10-99	その他の教育用器具	その他の教育用器具 A-1N WHO標準経穴準		23. 3	432,096	10-006813
	01-07	その他の書類整理機器	電動断裁機 LION No713		15. 1	425,250	02-005968

□□□□□

職 員 調

(令和7年4月1日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数	摘 要
1	校 長	服 部 匠 子		□□□	□.□	□□□□□
2	副校長	池谷佳代子		□□□	□.□	□□□□□
3	教頭	土 屋 憲 治		□□□	□.□	□□□□□
4	事務長	杉 浦 正 佳	事務総括	□□□	□.□	□□□□□
5	教 諭	馬 場 俊 一	小学部	□□□	□.□	□□□□□
6	教 諭	内 記 優 子	研修主任 小学部	□□□	□.□	□□□□□
7	教 諭	大 木 智 美	小学部学級主任	□□□	□.□	□□□□□
8	教 諭	山 本 尚 美	幼稚部学級主任	□□□	□.□	□□□□□
9	教 諭	伊 丹 誠	寮務主任 小学部	□□□	□.□	□□□□□
10	教 諭	橋 田 雅 子	小学部	□□□	□.□	□□□□□
11	教 諭	小 泉 茜	小学部学級主任	□□□	□.□	□□□□□
12	教 諭	久保田芙実	幼小学部主事	□□□	□.□	□□□□□
13	教 諭	渥 美 京 子	小学部	□□□	□.□	□□□□□
14	教 諭	鈴 木 小 織	生徒指導主事 幼稚部	□□□	□.□	□□□□□
15	教 諭	望 月 美 緒	自立活動主任 小学部学級主任	□□□	□.□	□□□□□
16	教 諭	河 守 悠	教務主任	□□□	□.□	□□□□□
17	教 諭	藤 野 萌	小学部学級主任	□□□	□.□	□□□□□
18	教 諭	近 藤 悠 未	小学部	□□□	□.□	□□□□□
19	教 諭	西 山 満	高等部	□□□	□.□	□□□□□
20	教 諭	松 本 明 子	理療課主任 高等部	□□□	□.□	□□□□□
21	教 諭	渡 邊 博 和	高等部主事	□□□	□.□	□□□□□

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数	摘 要
22	教 諭	木 村 雄 次	保健主事 高等部学級主任	□□□	□.□	□□□□□
23	教 諭	今 村 彩 乃	高等部学級主任	□□□	□.□	□□□□□
24	栄養教諭	木 幡 優 美	給食	□□□	□.□	□□□□□
25	養護教諭	佐 竹 典 世	高等部	□□□	□.□	□□□□□
26	寄宿舎 指導員	藤 島 裕 樹	寄宿舎代表	□□□	□.□	□□□□□
27	主任寄宿舎 指導員	飯 塚 一 弘	寄宿舎	□□□	□.□	□□□□□
28	主任寄宿舎 指導員	木 村 和 也	寄宿舎	□□□	□.□	□□□□□
29	寄宿舎 指導員	和 田 彩 夏	寄宿舎	□□□	□.□	□□□□□
30	寄宿舎 指導員	日 野 琴 美	寄宿舎	□□□	□.□	□□□□□
31	主 査	鈴木由希乃	施設・管財	□□□	□.□	□□□□□
32	主 査	杉 山 桃	給与・庶務	□□□	□.□	□□□□□
33	主 任	曲田真理恵	会計・調査	□□□	□.□	□□□□□
平均年数					□.□	

非常勤職員等

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数	摘 要
1	教 諭(臨)	稲 葉 隆 子	小学部	□□□	□.□	□□□□□
2	教 諭(臨)	小 林 安 里	小学部	□□□	□.□	□□□□□
3	実習助手 (臨)	杉 山 佳 子	高等部	□□□	□.□	□□□□□
4	会計年度 任用職員	杉 山 秀 美	用務	□□□	□.□	□□□□□
5	会計年度 任用職員	鈴 木 雅 行	用務	□□□	□.□	□□□□□
6	学校医	塩 田 勉	内科	□□□	□.□	□□□□□
7	学校医	廣 岡 敦 子	整形外科	□□□	□.□	□□□□□
8	学校医	羅 錦 榮	眼科	□□□	□.□	□□□□□
9	学校医	長 島 泰 行	耳鼻科	□□□	□.□	□□□□□
10	学校医	服 部 と も こ	歯科	□□□	□.□	□□□□□
11	学校医	鈴 木 寛	薬剤師	□□□	□.□	□□□□□

□□□□□

職 員 の 年 齢 調

(令和7年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	人	
20歳以上30歳未満	2	
30歳以上40歳未満	6	
40歳以上50歳未満	10	
50歳以上56歳未満	7	
56歳以上61歳未満	6	
61歳以上	2	
計	33	平均年齢 47.09 歳

□□□□□

健康管理

1 令和5年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 35人 職員数 36人
受 診 率	100%
県平均受診率	100%

(1) 未受診の理由

□□□□ □人

2 令和6年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0 人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要治療	0 人
B 2		要経過観察	0 人
C 1	勤務をほぼ平常に行っていてよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要治療	0 人
C 2		要経過観察	0 人
D 1	平常の勤務でよい。	要治療	15 人
D 2		要経過観察	5 人
D 3		医療不要	14 人
区 分 者 計			34 人
未区分者数			0 人
合 計			34 人

(1) 管理区分A～C 2該当者
に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア □□□□ □人

イ □□□□ □人

ウ □□□□ □人

エ □□□□ □人